特115
814

天長地久奉慶會

精神一到

もつ人の心によりて寶とも
あたとも成るは
本會名義の
美章門標なりけり

第一綴

国立国会
51.10.1
図書館

始

文中誤字及
誤句多々アリ
讀者之ヲ
諒セラレヨ

目次

一、口繪　一、人面獸身　二、上人さま　三、神武天皇
四、觀音菩薩　五、不動明王　六、國民の負担
七、二宮先生

一、天長節久奉慶會趣意書
一、本文
第一　懺悔談　一
第二　老ゆる者目鮮は恐れず　四
第三　御勅語の御意　五
第四　貯蓄は五大慾　一〇
第五　我本會幹事大木氏演說要領　一三
第六　共同貯金四字の意義　一六

4311
819

目次

一、口繪　一、人面獸身　二、上人さま　三、神武天皇
四、觀音菩薩　五、不動明王　六、國民の負担
七、二宮先生
一、天長地久奉慶會趣意書　一
一、本文
第一　懺悔談　四
第二　老は盲目蛇に恐れず　五
第三　御勅語の御意　一〇
第四　貯蓄は五大恩　一三
第五　我本會幹事天本氏演説要領　一六
第六　共同貯金四字の意義

文中誤字及誤句多ケレドモ讀者之ヲ諒セラレヨ

第七　空前の大快擧　一八
第八　獨佛戰爭談　一九
第九　赤十字社とか愛國婦人會とかに題す　二三
第一〇　愚子一同僧侶資格と題す　二四
第一一　嗚呼精神一到　二六
第一二　或る教育者の貯金談　二七
第一三　本會名儀紀念章待遇方の件　二八
第一四　献金に應したき精神と不幸の件　二三
第一五　第六に相協し或年限して個人据置の件　三四
第一六　如何にして餘す金はないと題す　三五
第一七　昨日の赤鬼も今日から佛と題す　三八
第一八　老は本會の御依頼狀を戴いての件　四〇

一、人面獸心とは、近來流行實に容赦無く上ぐれば、是に善惡者有無、然し慈悲心無き者は兎角已れが勝手に帶て出入つ、嗚呼已れか家事のみ、人は泣く共悼む共殆ど國防を顧りみず、俗に云ふ、我身しらずの連中を申す譯である●

一、宗教心こは、老若男女の區別なし、仮に佛說的凡て物は法に由れば何事でも出來るものである、英國に百年前ゼンナといふ人が、天然痘の流行を見て、何とかして治したいものだと、種々苦心の末、牛の痘汁を人間に植附け、天然痘を豫防することを發明した、其當時の人々の笑物となつて居たが、人を救はんといふ、慈悲心の此大發明は、遂に世に識られ全世界中幾億の人が、此の恩惠に浴することが出來た、丁度之と同じく、彌陀佛が十劫の、昔日に成佛なされた、此時既に三惡に沈むといふ、我々の恐るべき、天然痘を免ること、乃ち往生が治定したのである、ゼンナは種痘といふ大發明をした然らば、今日ではゼンナでなくては種痘も出來ぬかといふにさうでない、今日では山奥の竹庵先生に依賴しても立派に種痘が出來る之れ其法に出るからである、我等が彌陀佛の如き難行苦行せずとも、其法を信ずれば無上の佛になることが出來るのである、それであり乍ら畏も勅語の初めに　朕惟ふに……ごとあるこれは、陛下御自身の御考へである、御信仰である、陛下の御心の土臺は佛教である、皇祖皇宗の遺訓にして……ことあるをみれば、陛下御自身の御信仰は御先

祖御代々の御信仰である、又御先祖御代々は大方佛教信仰の御方ばかりで百二十一代の内九十代は佛教信仰の天子様であつた其中で三十七代迄は御出家であつた就中稱德天皇の如きは法體のまゝで御即位なされたのである、かゝる佛法信仰の御方々の御遺訓を仰せて下されたれ勅語の味は、是非とも佛法上から見なくてはなりませぬ、其所で諸君よれ勅語を日夜殆ど時間的心掛けて拜讀しありがたき御思召を實行なさることを、我本會は切に望みて止まざる所なり。

第一皇恩の二字は謹んで殆ど時間的熱心に拜し奉る事を忘ずべからず。

観・音　菩　薩

觀音菩薩

觀音菩薩は、心柳木の如く、ヤワラカで、靜かに慈悲深く、例へば、父母の恩と言ふべきである可。

不動明王

三・不動明王大士は、手に劍綱持ち、惡業の大盜人を綱にて捕縛し、劍にて切る、其勇猛專志の威盛は恰がゝ後ろにもへ立つ大火の如くなれば、かゝる惡者除けの善集である、尙慈悲心深き御意の神佛の恩でありませう

國民の負担

我が本部の、幹事天本梅可師の演説大要は、全國仁士へ對し遊説勸誘員の財料として記す、時は大正三年一月十日であります、然らば二十五億の借金は、何時如何にして辨濟せんとするか、年年積る金貨の利子さへ元金に繰込んで行く有樣であります、加ふるに、天災は年々容赦なく襲ひ來りて、其の度毎に莫大の費用を要するのである、國政は次第に發展して入費は嵩む計りである、政府は民を苦しめたくはないが、背に腹は替へられぬから、不得止國民に重税を課せる事になる、皆さんよ今日は大正三年一月十日であります、今後に於て法律の加除は兎も角も、現今の有樣は如何であるか、足に通行税、着物には織物税、一寸一服やれば煙草税、晩酌には酒造税、燈火には石油税、漬物には鹽税、饅頭摘めば砂糖税、犬を飼へば畜犬税、其他ありとあらゆるものに税を課し而も戰時税と稱して、今尚二重税を課しをるものも少なくない、諸君茲に至つて我國の財政が如何に苦にしいかと云ふことが分るでせう、そこで阿部銀子女史が人知れざる辛苦艱難を嘗めた末、高位高官を說き遂に伯爵東久世通禧閣下を會長に戴き、本會益々發展に赴つゝあり諸君よ、箇樣な譯で有ますから、國一

致して、金一厘以上の貯蓄して邦家の爲めに酬ましう
財政が宜敷運轉せば、吾々六千萬同胞の幸福は、實に明
なり、ソレデアリマスカラ幹事の大要は、皆人の恩と言
こゝが大切である。

二宮先生

二宮翁の德對勉學修は、空前の大快舉經濟界の大革命でありたんや、國民として宜しく記すべし、譯てあり、數々感ずる所か、葉根香りが吾人の誠或は祖先の恩とせよ、諸君よ一度の大艦を求むるにも、金一千萬圓を要する譯である、尚頓數は大略一千萬頓でせう、今後に於て御召艦と共に例は、增艦數拾雙を注文とあらば製艦費の途算數字は如何にして宜しきや、然し數字計てなくて、皆さんよ絶体に艦費として、仮に金六億圓を要す際は、何の金庫より出ずるか苦にしいそこで上に示めす如く、吾々には素より、零碎の金を熟心に貯蓄して必ずしも一致共同して、經綸事業で以て併て、祖先の恩より出ずるものにて他に方法ない、然れば本會長伯爵東久世通禧閣下の、御遺言書に從ひ奉るのでせう、他に宜き法方は、未だ見る能ざるなり

天長地久奉慶會趣意書

萬世一系の皇祚を踐み給へる、至悲至仁なる聖天子を奉戴し、坤輿に比類なき國土に生を有する吾國民は、其の本分を守り其本領を盡し、以て天恩の厚きに報ゆる所なかるべからず　惟みるに、天壤無窮の皇運は日に月に隆昌を極め近く迎へ奉るべき　今上天皇陛下御即位式の御大禮は實に絶世の御慶事にして、我が國體の靈華天壤と共に窮なきを悅ぶ、然れども彼の一度清韓の領土を保全し、滿洲を開放せしめ　以て列國の均

露、東洋の平和を效さんが爲め、戰端を開くや　至誠義勇公に奉じ、建國以來偉勳を奉じ　國光をして能く全世界に宣揚することを得しも、二十餘億の負債は國民の双肩に懸り、臺閣諸公はこれが整理に全力を傾注するの秋たり、上下心を一にし忠實業に服し、勤儉産を治め、惟信惟義醇厚俗を成し、華を去り實に就き、荒怠相誡しめ自彊息まざるの至誠を要す　曾て賤女は國恩報謝の熱望を以て二十八年間貯蓄し來れる其の私財を投じ、東奔西走雨に浴し風に櫛られ、貯蓄の奬勵と勤儉の必要とを說くことと茲に二十三ケ年、自已の貯金を申込し者全國を通じて五百餘萬人に及び、其の貯金額は實に貳千餘萬圓に達せり、而して之が偉大なる效果を認めたる政府は、特に郵便据置貯金の制度を設け去る明治三十七年十一月一日、同三十八年五月十八日の官報を以て普く天下に發布したり、蓋し之据置貯金の嚆矢なり、かくて畏くも賤女が微衷は天聽に達して彼の戊申詔書は煥發せらるゝに至れり、賤女等感泣措能はず、夫六千萬の蒼生にして一日五厘宛の貯金を五十年間据置ば、優に年利六分として元利合計金貳百七拾壹億八千九百九拾萬圓に達す、之が元金を政府事業に活

用し、其の利殖を以て、皇室大禮のある毎に、奉慶紀念として、國家的慈善事業等を補助或は之を天變地異の備荒に供しなば、國家經濟上大なる利益を見るは言を待たず、此の共同据置貯金に冠するに天長地久の文字を以てし、上皇室を始め奉り、下國民の繁榮を祈り、以て貯蓄の光譽を赫々として、四表に輝かしめんこと之賤女が畢生の大望なり、願は奮て本會の趣意に翼賛し給へ

郵便据置貯金
天長地久奉慶會　發起人　阿部銀子　謹白

天長地久奉慶會長　伯爵東久世通禧閣下

幹事　天本梅可師
全國勸誘員　井野元八

第一　懺悔談

皆さん私が井野老で御座ゐます、至つて愚者でたまけに廣島縣壹番の貧乏神で有ります、世の中に貧乏程悲しいものはありません、其所で三十年を合して一日の如く何等苦心の結果本會へ入會し、素より無學訥辨で露骨に解く事皆さんへ對し甚だ恐入りますが、謹んで左の如く眞實國防の情より、淨財を本會の趣旨に基いて佛説的皆さんの御蔭を蒙りつゝ時局的血と涙を注いで同時大々的奮勵以て半日は國家の爲め尚半日は

家事の爲めに努めて居ます、而して山なす負債も此事業を續けて皆濟致す考へで御相談を致す譯で有りまず、負債が重んで最早債權者諸君に對して、申譯の出來ない不面目は、丁度國債が二十五億を六千萬同胞が負担して居るのと御同樣で有ります、斯樣に莫大なる貧乏神が、山なすのみならず、世界未曾有の大戰亂を眼前に差控へてある、今日では有りませんか、是に於て御承知の如く、帝國議會は國防急務の秋たる今日、或は一部の問題が成功し得ない爲めに、悲しいかな既に大正三年十二月二十五日を以て、衆議院解散を命ぜられまし

た、又是に大正四年五月五日より九日迄の、全國各新聞は、如何なる號外を奮て居ませうか、全く日支重要問題は最後の通牒なりと讀むべきであらんや、事機密に屬し吾々には事實の眞相を知るを得ませんが、兎に角戰爭は富國に限りて先手を掛けますので、本會希望の共同貯金を熱心に御賴み申す譯で有ります。

第一　老は盲目蛇に恐れず

皆さんよ、或人曰く老は前後に述ぶるが如く、無學なるも盲目蛇に恐れずの道理、何の苦もなく我が身の懺悔と共に訥辯以て露骨に解き出す實行談は、言句聽衆の肺肝を貫く迄の感を與へたり（一座失笑）御笑ひなさるが、本文は眞に精神一到で御座います。

第三　御勅語の御意

千時吾々日本國民は是に御勅語を啻に此の世のみならず、未來幾年幾百千萬の代を經るまでも、生れ來りて遵奉しなくてはならぬ、見よ徴兵檢査の時勅語を問はれて記憶し居る者幾人ありや、或る時縣知事が體格檢査員に尋ねた時、表面から見れば資産家の口廣き高等らしい一人此所に勅語を知つて居ますと答へた者であるから、御勅語はと尋ねたらば、忠義をする事で御座いますと答へた、そこで更に忠義するとは、と尋ねたら

ば只戰爭に出る事で御座りますとやつてのけたといふ事である、誠に畏れ多い次第では御座りませんか、畏も天皇陛下が勅語を下し賜はつた御思召は、誠に六千萬の同胞が朝な夕なに拜讀し實行せよとの御親切である、何事に就ても夢にも忘れてはならぬ事である、然るにこんな有樣になつて居るのは今日學校に入つて學問する者、教育せらるゝ者が、學問とは利巧になる事だとのみ考へて、人格を作り上る事だと品性を高する事だ言ことを忘れて居る、即俗諦門を忘れて居るに依るのである、學校の先生は學校の門外に出て教育する

ことは出來ないから、吾々社會の者は此の樣な會合で此邊の心掛けを會得することが必要である、固より一度や二度で了得することが六つか敷に致しても、幾度も聞つ語りつする中には意味の分らぬ正信偈もひとりでに有難さを感ずる如く、自然の感化を蒙るものであるから、諸君は日夜此の心を體して勅語の御意を尊奉し、佛法を御信仰なされよ、斯の道は實に我が皇祖皇宗の遺訓にして子孫臣民の俱に遵守すべき所、と仰せられたる如く誠に此の道は代々の天皇世々の人民悉く遵奉せざるべからざるの大道である、之を古今に

通じて謬らず、之を中外に施して悖らず、こ誠に古往今來に通じ世界萬國に悖らざる大典である、此の道德を守り行ふべきことを毫も忘るべからざるなり御勅語に就而は大略こゝ迄申して置きませう。

二伸我が本部の住所左の如し

東京市芝區三田功運町二十九番地
電話番號芝二三一九
振替貯金口座番號
東京二〇四七九番

會長　元樞密院副議長　正二位伯爵　東久世久通禧閣下

後撰定継中當分從前の儘にて差支なし

本會發起人　阿部銀子女史

本會幹事　辨士　天本梅可師

本會より御依頼狀を戴いて日本全國勸誘員　廣島縣世羅郡上山村九四四番地　井野老

第四　貯蓄は五大恩

九

第一皇恩、父母の恩、神佛の恩、人の恩、祖先の恩の五大恩は、山より高きを思ねばなりますまい、其氣持は恰患者に藥を施し、泣く子に乳を與へたと同じ事で、六千萬同胞は宜しく五大恩に報い奉る可きであります、畏も一奉慶心或は奉悼心擧國一致に協力して、一部の萬歳でなくて日本帝國本眞の萬歳を宜しく唱へ奉る可きではありませんか、皆さんよ第一宗教心なきものは、一奉慶心もなければ慈悲心もない國防心も一致共同心も勤勉心も貯蓄心もない、只徒に述べ兎角已勝手を爲しつゝ、第一國恩を忘れ已が分を顧みず、凡て惡事を日夜是れ事とし、却て或る慈善家には毒言を放ちつゝ有るが如き、大に惡むべきでは有りませんか、斯の如く國恩の何たるを知らざるの徒は、神佛恩の高きを心に掛けず、只一枚の舌には法律は恐しいものとは言ひ觸れて居ながら有罪をも釀すが如き少しも恥ず、此等は溜たい一方で人はなくとも、已の勝手に取りつゝ、例へば人面獸心ではなきや、其所に本會は眞面目な國民で、然も仁人義士の入會を願いて、義勇奉公の至誠を堅固にし

て戴く考へで有ります其れでありますから、本會の趣旨は國家の安泰を期し、皇恩萬一を報ぜんとする、相談會であります。

第五

我が本會幹事天本氏の演說領要

我本會幹事は斷根和尙で有ます、和尙の赤誠を知らざる所以なるか、或は知りて尙知らずとするか、是に愚老一心前後乍らも將來勸誘の財源として、謹聽す、獻身的辨士天本梅可師演說に仍れば感ずる所多大なり、時は大正三年一月十日でありますし自己宗祖の御遠忌を營むには四五年前より準備のため、大騷動せしに餘日今秋に迫る御卽位式に對しては何等の音も沙汰もなし、之敎導することなきを以て信徒も哀れ又音も

なければ香もなし、嗚呼此の御生涯一度の大典を只々形式的口頭萬歲國旗祭甚だしきは提燈行列に終らば實に虛禮の恐れあるべし、女史は曩に二回迄も全國を遊說して趣意贊成者六百有餘萬人を得たるが、就中世人を教導する宗教家殊に各宗本山を始め、僧侶は八千人の贊成を受け、嘗ては機關雜誌及說教等の場に於て御報導に預りたるも、只一時の趣意の取次をなしたるに止まりて、繼續して眞に國家の爲に奬勵する者は殆んど見る能はざるなり、世には總裁會長等の依賴に依り、勳位等を得んこの名譽心より奔走する者あれども

献身的愛國の赤誠を以てせず、されば人心矯正の爲には宗教家は宜しく、今後の說教等の際には神佛尊崇の事に第一に說き次ぎに必ず國家の狀態を說きて、覺醒せしむる方法を講ぜられたく、尙機關雜誌等にも數々掲載して國家の隆盛を計られたき旨切に望みて止まざる所なり、今や御即位式は短日月に迫りたれば、宗教家諸氏の奮つて活動すべき好時機は來れり、此の際等閑に附しなば即ち國民は虛禮に亘らん、然らば國民の不敬は宗教家の罪に歸せざるべからざるなりと、口角飛沫記者に對して滿腔の氣焰を吐露せられたる、慷慨談

を聞き益々感奮に耐へざるなり。

第六　共同貯金の四字の意味

皆さん共同貯金と申す四字の意味は、畏も奉慶献金の事を申し上ぐるので有ます其所で皇恩に報じたる金なれば拂戻を爲さず、永久政府に預け入れ其三分の一を以て御大禮を始皇室御慶事毎に國家的慈善事業を補助し、或は天變地異に救濟し、一旦緩急の場合に軍資に献納して報國の義務を盡すものです、畏も御大典を機こし擧國一致共同して本會へ入會すれば、金拾錢以上貯金することが、容易く出來る次第で有ります。

第七　空前の大快擧

空前の大快擧、經濟界の大革命でありまして、何しろ

ず、邦家の爲めは、我が身の爲になる譯で有ります、而し

て本會の會名を天長地久奉慶會と申しまして、一名を

奉悼會と申します、天長とは天皇陛下地久とは

皇后陛下の御事を申し上ぐるので、即ち天長へに地久

しく慶び奉ると言ふ會である、然し必ずしも奉慶のみ

に限ず愁しむ可き時には又悲しみ奉るので有ます。

第八　獨佛戰爭談

皆さん、御參考迄でに申上げますが、明治四十三年我が

本會發起者たる、阿部銀子女史の說明に依れば、日露戰

爭の要点は、愚老が將來勸誘の財源として大に感ずる

所有無に抱ず、我國民たる者は深く記憶せざる可から

ざる所あり、彼の獨佛戰爭及び現時の歐洲戰亂に於て而

も尙明かなり、實に世の中に貧乏程悲敷ものはありま

せん、諸君獨佛戰爭に佛國が大敗となりましたから、巴

里の都に於て講話談判が有りました、其時獨逸よりは

モルトケ將軍が參りまして佛國に向ひ金五十億フランクの償金を出しなされ、若し否と言へば獨逸は軍隊を向けて巴里の都に血の雨を降らしますと、脅迫せしに如何な佛國も是には閉口して遂に其請求に應じました、我日本も實に其通りに談判を致し度くはありましたなれども、貧乏の悲敷さには其丈けの强硬なる談判することが出來ざりしは殘念至極では有りません、我が國は兵强き事は世界第一なれ共かな敷事には富國とは言へない、是れより各國民の貯金の比較をして御覽に入れませよう。

國名	貯金高	一人平均
米國	四十四億万圓	六十九圓
獨國	二十七億万圓	七十八圓
オウ國	二十三億万圓	五十圓
佛國	十九億万圓	四十五圓
英國	十八億万圓	四十四圓
伊國	十億万圓	三十圓
露國	七億万圓	八圓
日本	七千万圓	一圓四十錢

右の如く、日本は尻から一番ぢや、如斯貧乏國の全權公使となりし小村外務大臣こそ實に御氣毒で、貧乏クヂ

を引き當たのである、夫固で露國は日本の要求を客れませんから、サツパリ角力になりません、只々電報計りかけて談判は斯の如き始末なるが、一文取らずの講話するか、果た戰爭を繼續するや、今後角力の取り方があるから早く結着を聞かせよ、と有るから、東京に於ては元老の御方々が樞密院の二階で三日間晝夜詰切で大評議が開始されましたが、事機密に屬し我々には事實の眞相を知るを得ませんが、兎に角遂に一文取らずの講話となつたので、互に　違恨千萬に存する處であります。

第九

赤十字社とか愛國婦人會とかに題す

皆さんよ、我國には赤十字社とか、愛國婦人會とか、色々な會がありますが、神武以來未國民より、皇室の御繁榮を祝する萬歲會なるものはありません、依而銀子女史が實踐躬行即ち献身的斯くの如き、全國仁人義士の紹介の結果本會益〻發展に趣きつゝある譯で御座居ます

第十　愚子一同僧侶資格を題す

二伸、更に愚子一同僧侶の資格を得ん爲め、明治四十三年八月以來農閑熱心に學續中本會へ入會し、一致共同して一人なりとも、多く一人一日金一厘以上の貯蓄を全國仁人義士に遊説勸誘致す大々的の覺悟であります、尚僧侶目的は全國宗教心有無を説き、我が宗祖の深仁なる御掟を謹み從ひ奉り、是に至つて我等は親切叮寧に、御法義大切の取次ぎをなしつゝ、併せて國恩に報ぜんが爲め、全國の金力講話に付ては六千万同胞宜しく上下心を一にし、時間經濟と癈物利用の零碎の金を、一定の貯金番号にて、老若男女の共同貯金をなし、以て畏も　今上天皇陛下の大御心を安め奉り、皇恩の萬一を報せんとする大事業であります、何事も爲せば爲る業をして、大々的共同心を養ひ、朋友及愚子一同等の精神一到を能く讀みて下さい、讀み落しを下さらば眞面目なる大事業が了解が出來ませんから、只管御多讀の程御願ひ申す譯であります。

第十一　嗚呼精神一到

嗚呼精神一到何事成らざらん國防の秋は今日なるぞ
爲せば成る、爲さねば成らず、成る業を、
成らずとすつる、人のはかなさ。

第一　美しき女、　第二　大酒、
第三　にようゝ食ひ、　第四　夫婦喧嘩、
第五　朝寝夜話し、　第六　未練、

紳士紳商の寶を數へ羨みて、百姓商人の學問だと、皆さんよ、金のなる木に氣を付て萬の惡意を拂ひませう。

第十二　或る教育者の貯金談

或る教育者の説には、兒童に貯金を勸むるは、天眞の美風を欠き、野卑に陷ち入らしむるの弊害あるとの事ですが、是れは個人貯金の事で、奉慶貯金に於ては、返て我が慾を去り、忠君愛國の念を益深からしむる精神の修養となります、萬歳を呼び又は悲敷んで奉悼の意を表する赤誠があるならば、奉慶的献金して、具体的奉慶の意を表して下さい。

第十三

本會名義の、紀念章を御持愛の仁士は、國恩報謝の爲め畏も　兩陛下へ、第一影膳を捧げ奉るのであります、私はこれから四十年間、毎月一人一回金三錢以上、即ち一人が一ケ年僅金參拾六錢以上、献金方を全國へ遊説勸誘致す譯であります、凡て物事は餘せば出づるを易し不充と來れば出で難し、一應御尤で御座居升、然し勤勉加して納むる、天長地久奉慶會の忠魂と思ひつゝ、實に塵も積れば山となる、大海も一滴の水より成る譯であるから、畏も　兩陛下の御召艦及陸海軍備に相協力し國債償還と、帝國基本金百億萬円の正金を得るも本會の目的である、是が成功した曉に於ては、本會名義の紀念章御持愛の仁士は、本會規則第三四五六七條範圍内の規定に基いて、特別會員と認むる仁士に對しては、待遇方豫まし左の如く、先ず特別會員と定め、將來皇室に於る御慶事には、汽車は半金となし、又人民として拜見ならぬ御所の拜見をせしめるか、又御慶事の紀念に御召艦献納せし時は其軍艦拜見に乘せる事を許すか、其待遇方に就ては、東京貴人方に於て目下御相談中であ

ります、諸君今日迄は、タトヒ金千萬圓にても人民の献金は　陛下は御受はなけれども、本會に入會すれば金十錢より、正月元日の如きは御屠蘇料として献納することを得る、誠に恐れ入たる次第で有ます、共同貯金は東久世伯爵閣下か六千萬國民の御総代で、共同貯金には貯金通帳只一冊のもので、郵便局より東久世伯閣下の方に差出しにて、第一金婚式を目的として十ケ年後に非れば引出す事なりませぬ●

御注意

我が本部の説明する所、時は大正三年一月十日で御座

居ます、

謹告　會長薨去被遊たるも、名儀は未だ變更せず、後繼者として適當と認むる者無之にあらねど、金錢上は極めて注意を要するものに附目下選定中なり、昇天した伯が貯金を左右し給ふ憂なし、諸君安心せられよ、御疑念の御方は本會發行の預入票番號にて遥信省に照會あれば明瞭なり●

第十四　献金に應じ度精神と不幸の件

如何にして、重き献金に應じたく精神あれども、不幸にして、困窮者は日夜の經濟も困難なるものなれば、悲しいかな、本會の同情を得難し、或は慈善心なきものは御面に恥もしらぬ顔、溜たい一方で、畏も　今上天皇陛下の御宸襟を安め奉る本會の趣旨を誤解して、徒に陳べ反對說を觸れつゝ、已れが勝手に努めて、國防を顧みず餘す金あらば地方高利に貯へて、薄利の郵便局へ預けず、やはり個人の之れが權利と言する、國防援護の秋な

る、今日一人一日、金一厘以上の献金して、皇恩の萬一に報ぜんとする、本會仁士の根元は、國家の爲め大事業なるものに、悲敷かな趣意規則に、防害を及ぼすもの數ふるに遑あらず。

第十五

第六に相協し或は年限して個人据置の件

第六に相協し、仍而是に再度共同貯金と申す事の意味に就而は詳細に申して置きますが、畏も奉慶献金の事を申し上ぐる次第であります、依而誤解なく記憶下さい、然して、前記のみならず、一定の年限して吾々個人で地方郵便局にて、金拾錢差出せば据置貯金通帳を受けて、毎日一人が金壹厘以上積む時は、先ず金拾錢に溜りし際、件の通帳へ添へて、地方局窓口へ差出せば、同時貯金係は記入明瞭なり、寄付とは違ひ一厘に限りし事は

無い、家事の都合にて金千圓でも郵便据置貯金に入れますには、宜しき方法在り・

第十六

如何にして餘す金はないと題す

皆さんよ、如何にして餘す金はない、餘せば貯金するなど言ひ觸れつゝ、誤解の爲めに反對餘す金は不潔にな

きや或人曰く、乞食貯金と申して、例へば餘す芋切共あらば乞食へ呉れましよう、其所で本會は天引に貯金致す様相談會で有ます、舉國一致共同して例へば、農商工業等の御方は、毎日收入の幾分を、又月給日給御取の官吏の御方は、件の給料金御受けの際、同時地方郵便局にて件の通帳へ、御初穂貯金として、給料の幾分を添へ同局窓口へ差出せば、貯金係は親切に記入方明瞭なり即ち是れが天引貯金と申します、上に示す如く寄附とは違ひますので、其れぞれ都合に依り、例へば千圓でも尚多く預ければ、利子も多く付く譯で有ります、

仍而、諸君も御賛成計りでなくて、精神的宜しく國家の大業なれば、地方郵便局にて、据置貯金を入る様大望で有ります、其所で銀行や、産業組合等へ据置貯金を奬勵せらるゝ御方には、本會は地方協議の上にて、賛成を致す云云。

第十七

昨日の赤鬼も今日から佛と題す

皆さんよ、昨日迄赤鬼も、兎角改心堅固となれば、今から菩薩、鬼も佛に早替りと言ふこともあらんや、既に大正三年十二月七日を以て、帝國兩議院に對し、畏も御勅語を賜り、茲に謹んで奉讀せし候はば、國防の重大急務たる今日に於て、何等氣樂に已れが分を顧みず月日を過ごすことは誠に恐入りたる次第で有ます、そこで謹んで日夜の悪事を早く防ぐ可き秋たり、大隈伯閣下を援護しつゝあり、邦家の爲め大に慶賀すべき事でありますし

同時本會長東久世伯閣下の遺言書に依れば、嗚呼光陰矢の如し、參ケ年を過ぐれども涙未だ乾かざるにも、抱はらず、花は全然美しく實に本會益發展に趣きつゝ、仁士の努力と共に、先以て重き會長の遺言書に從ひ奉り益々援護奮闘しつゝあり、誠に本會は邦家の爲め將來國利の根元之れに過ぎたるはあらんや、婦女一人で全國を驚かす、大業發起者阿陪銀子女史は、約三十五ケ年を合して一日の如く、實踐躬行、談は益邦家の爲め痛苦なされしは、世界で珍しき女史ではありませんか、國民たるもの感謝の至りに、只驚くの外はなし。

第十八

老は本會の御依賴狀を戴いての件

扨て、老は大正三年四月以來、本會の御依賴狀を戴いて謹んで、日本全國遊說勸誘一心益奮闘すべき秋に方り故に、是に質問希望の眞心あらば、諸君何時なりと、一人なりとも多く血と涙と共に一々說明致したい譯で有ます、斯樣な大事業は、國利民福と謂はねばなりますまい、尙御注意を御願ひ致す譯でありまず、本會名義の紀念章は、徒に佩用する事を得ず、前記に述ぶる如く本會待遇方法に就ては、東京貴人方に於て、目下御相談中

で有ます、何れ待遇方法は、一定の發行に迫りつゝ、本會へ入會者は、獻金多少に拘はらず、御同樣で有ます、本部或は支部より、何れ後日御案内も有之趣なれば、同通知書は、社員諸君へ到着同時に於ては、該章規定に基き、初めて御使用相成度、再三記入の上御願ひ申します、

干時、長くなりますので、今日は時間も移り、諸君も御疲れの樣であるから、只大略のみ御話をいたしました、失禮乍ら之で終りません。

大尾

大正四年八月十日印刷
大正四年八月十七日發行

廣島縣世羅郡上山村大字上壹九百四十四番地
編輯兼發行人　井野元八

廣島縣世羅郡西大田村中原拾參番地
印刷人　井口眞

廣島縣世羅郡西大田村中原拾參番地
印刷所　井口活版所

終